

農場とGPセンターが 一体となってめざした 格外卵の低減への取り組み

DATA 事業規模
所在地: 西日本地区
飼養羽数: 採卵鶏30万羽

今回は、西日本地区の中堅規模の生産者が、経営を別にするGPセンターと手を取り合い、飼料会社とともに格外卵の低減に取り組んだ事例を紹介したい。

格外卵低減へ向けたGPセンターとの原因究明

取り組みのきっかけは、格外卵の発生率を抑えたいという経営者の強い思いだった。卵価低迷と飼料価格高騰に耐える経営をめざし、一刻も早く、格外卵を減らさなければならぬという決意であった。経営者の思いを受けた飼料会社は、すぐさま格外卵の分析に乗り出した。

膨大な数の鶏卵から格外卵を集め要因分析を行った結果、特に問題になっているのは汚卵であることがわかった(図1、2)。さらにその原因

を調べると、破卵した卵黄の付着やワクモのふんに加え、原因不明の茶色く垂れた汚れが多かった(写真1、2、3)。この茶色い汚れは、クマネズミの汚れた尻尾が卵をなでたものという見解がある。

諸悪の根源は破卵、ワクモ、ネズミだと判明。経営者は早速投資をとまなう改善を断行した(写真4、5、6)。すると、卵殻の汚れに大きな改善が見られた(図3)。

選別基準を見直し 格外卵発生率を改善

ところが、ここで次の問題が浮上

する。卵質は確実に改善したにもかかわらず格外卵の発生率がほとんど下がらないのだ。

原因は、GPセンターが少しでも汚れた卵は洗卵の前に格外卵としていたためであった。これは、最良の製品をお客様に納品したいというGPセンターの配慮である。そのため、格外卵が減っていなかったのだった(表1)。

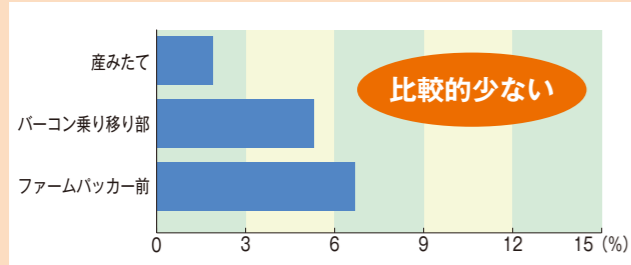
しかしこれでは経営は改善しない。GPセンターは農場の置かれた事情を理解し、卵の選別基準を少しだけ緩めることにした。洗卵で汚れが落ちるものは格外卵にせず正常卵にできるよう、何度も格外卵の選別基準を見直した。その結果、格外卵の発生率は約4%改善された。格外卵はあればあるほど赤字である。

4%の改善はとても大きな数字である(図4)。とはいえ、これ以上基準を緩め、小さな汚れのついた卵を出荷してしまえば、納品先からクレームが発生するおそれがある。さらに上をめざすためには、鶏卵そのものの品質を改善しなくてはいけない。その先に、再びGPセンターとの調整が待っている。

今回の取り組みの最も大きな収穫は、農場とGPセンターが互いの立場を尊重し、可能な限り協力体制を組む関係が作り出されたことである。互いの経営を担いながら主張し合い、緊張感を持って格外卵低減の取り組みを繰り返していく関係こそが、何ものにも代えがたい成果であった。

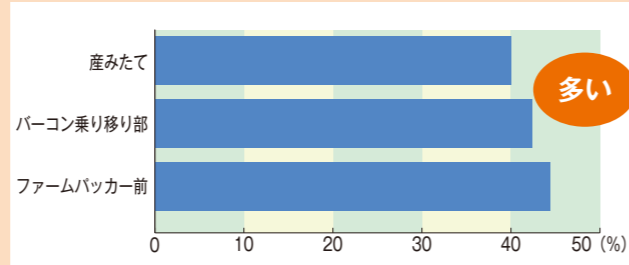
格外卵の原因

図1: 農場格外卵の発生(ひび)



※小さなひびも目視で数えているので、発生率は高めにしている

図2: 農場格外卵の発生(汚卵)



※わずかな汚れも目視で数えているので、発生率は高めにしている



写真1: 黄身汚卵 写真2: 鶏ふん汚卵 写真3: ネズミの尻尾が原因と思われる茶色いしみ

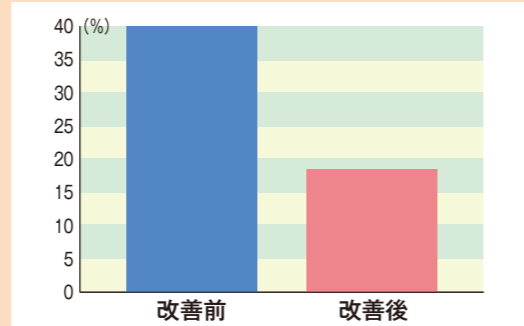
Point!
汚れの原因は主に破卵、ワクモ、ネズミであることが判明

設備の改善で格外卵発生を低減



写真4: 鶏卵バケット: 動作タイミングを修正して乗り移り際の破卵を減らした
写真5: 鶏卵エレベータ: 汚れている場合は鶏卵への汚れ付着を減らすために掃除が必要
写真6: クーリングパッド: クーリングパッドはすべて更新し、夏の卵殻質低下を抑えた

図3: 汚卵発生率の比較



※わずかな汚れも目視で数えているので、発生率は高めにしている

表1: GPセンターで比較した結果

	改善前	改善後	差
ヒビ	7.9%	8.4%	0.5%
汚卵	2.0%	2.3%	0.3%
血玉	0.0%	0.0%	0.0%
透光	4.2%	4.3%	0.1%
集卵場	8.2%	9.7%	1.5%

あまり減っていない ←

図4: 基準変更後の格外卵発生率

